

## 審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1335 号	氏名	松尾 勝久
審査担当者	主査	大島 孝一	(印)
	副主査	鳥村 拓司	(印)
	副主査	梅野 博仁	(印)
主論文題目： The expression and significance of laminin receptor in squamous cell carcinoma of the tongue (舌扁平上皮癌における laminin-receptor の発現とその意義に関する研究)			

### 審査結果の要旨 (意見)

本研究では、舌の扁平上皮癌における laminin-receptor の役割を、66 名の標本を使用し、免疫組織化学的に染色し、laminin-receptor の発現と臨床病理学的因子を評価した論文である。さらに、また、上皮間葉転換が悪性腫瘍の浸潤・転移と関連することが示されているため、E-cadherin、vimentin、N-cadherin の染色も行っている。結果:術後再発した 20 名の患者のうち、14 名が laminin-receptor 高発現を示し、Kaplan-Meier 解析では、laminin-receptor 高発現群は低発現群に比べて術後再発までの期間が有意に短かった。術後再発の多変量解析では、laminin-receptor の高発現は予後不良と関連していた。Laminin-receptor と N-cadherin との間には相関関係が認められたが、laminin-receptor と E-cadherin、vimentin との間には相関関係はなく、laminin-receptor 高発現は、術後再発の有用な予後因子であった。今回の研究より、舌の扁平上皮癌への臨床治療へも応用が多いに期待される成果である。審査にあたり、副査より、今後の展開、また実験系の可能性に対する質問にも的確に回答が得られている。この論文は十分に学位に値するものと考えられる。

### 論文要旨

Laminin-receptor は、基底膜表面に存在する laminin と結合する非 integrin 型の細胞表面受容体である。様々な悪性腫瘍の浸潤・転移に関連することが報告されているが、舌癌に関する研究は報告されていない。本研究では、舌の扁平上皮癌における laminin-receptor の役割を明らかにすることを目的とした。舌扁平上皮癌患者 66 名の標本を免疫組織化学的に染色し、laminin-receptor の発現と臨床病理学的因子を評価した。また、上皮間葉転換が悪性腫瘍の浸潤・転移と関連することが示されているため、E-cadherin、vimentin、N-cadherin の染色も行った。結果:術後再発した 20 名の患者のうち、14 名が laminin-receptor 高発現を示した ( $P=0.0025$ )。Kaplan-Meier 解析では、laminin-receptor 高発現群は低発現群に比べて術後再発までの期間が有意に短かった ( $P=0.0008$ )。術後再発の多変量解析では、laminin-receptor の高発現は予後不良と関連していた(高発現 vs 低発現、 $HR=3.19$ 、 $95\%CI=0.92-11.08$ 、 $P=0.0682$ )。Laminin-receptor と N-cadherin( $P=0.0089$ )との間には相関関係が認められたが、laminin-receptor と E-cadherin( $P=0.369$ )、vimentin( $P=0.4221$ )との間には相関関係は認められなかった。これらの結果から、laminin-receptor 高発現は、術後再発の有用な予後因子であり、舌の扁平上皮癌を治療するための分子療法の標的となる可能性が示唆された。